

平成26年度

英語教育改善のための 英語力調査事業報告書



文部科学省

平成27年3月

平成 26 年度「英語教育改善のための英語力調査」報告書 目次

1章 調査の概要	3
1. 調査の目的	
2. 調査事項及び方法	
3. 調査期間、調査対象	
4. 調査結果の解釈などに関する留意事項	
5. 調査問題の構成	
6. 出題内容	
7. ライティング及びスピーキングの採点基準	
8. CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）を参照した分析手法	
2章 調査結果の概要	17
3章 技能ごとの調査結果の分析	39
(1) 読むこと～Reading～（根岸委員）	40
(2) 聞くこと～Listening～（安間委員）	52
(3) 書くこと～Writing～（森委員）	64
(4) 話すこと～Speaking～（渡部委員）	75
4章 質問紙調査結果の分析（竹内委員）	91
5章 学校の取組紹介	121
6章 終章（松本主査）	159
<関連資料>	167
(1) 「英語教育改善のための英語力調査の分析・活用に関する 検討委員会」の設置	168
説明（趣旨、取扱事項、実施方法、実施期間、その他）、執筆者協力者	
(2) 本調査の背景に関する参考資料	170
（第2期教育振興基本計画、グローバル化に対応した英語教育改革実施計画など）	

<参考資料>

資料1：質問紙調査結果の分析（公立学校）	183
（1）生徒質問紙	184
（2）学校質問紙	194
（3）教員質問紙	197
資料2：質問紙調査結果と各技能のクロス集計（公立学校）	213
（1）生徒質問紙とリスニングのクロス集計結果	214
（2）生徒質問紙とスピーキングのクロス集計結果	234
（3）生徒質問紙とリーディングのクロス集計結果	242
（4）生徒質問紙とライティングのクロス集計結果	256
資料3：質問紙調査結果の分析（国立学校）	271
（1）生徒質問紙	272
（2）学校質問紙	282
（3）教員質問紙	285
資料4：質問紙調査結果と各技能のクロス集計（国立学校）	301
（1）生徒質問紙とリスニングのクロス集計結果	302
（2）生徒質問紙とスピーキングのクロス集計結果	316
（3）生徒質問紙とリーディングのクロス集計結果	330
（4）生徒質問紙とライティングのクロス集計結果	344

1章 調査の概要

1. 調査の目的

- 教育基本法に基づき策定された「第2期教育振興基本計画」（平成25年6月閣議決定）において、グローバル人材の育成に向けた取組として、外部検定試験を活用した生徒の英語力の把握検証などによる戦略的な英語教育改善の取組の支援を行うとともに、高等学校卒業段階における英語力の目標が成果指標として掲げられた¹。
- 同年12月、文部科学省が公表した「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」（平成25年12月）において、小・中・高の各学校段階を通じて英語教育を充実し、生徒の英語力を向上²することなどが提言されたことを踏まえ、フィージビリティ調査として本事業を実施した。
- 全国の無作為抽出による高等学校第3学年約7万人（約480校）を対象に、英語に関する4技能（読むこと、聞くこと、書くこと、話すこと）がバランスよく育成されているかという観点から本調査を実施し、生徒の英語力や英語の学習状況の把握・分析を通じて、学校における生徒への指導の充実や学習状況の改善に活用する。
- 平成26年度の旧学習指導要領で学んだ生徒に対する調査と、平成27年度の新学習指導要領で学んだ生徒に対する調査について経年比較を行い、その分析結果を次期学習指導要領改訂の検討において参考にするを含め、今後の英語教育の充実・改善に生かすこととしている。
- なお、本調査は、高校生の英語教育の多様性を踏まえ、世界標準に基づいて日本の高校生全体の英語力を測定するため、CEFR（Common European Framework of Reference for Languages：ヨーロッパ言語共通参照枠）を参照して測定することとした。

¹ 第2期教育振興基本計画（平成25年～29年度）においては、グローバル人材育成に関する成果指標として、次の目標が掲げられた。

①国際共通語としての英語力の向上

・学習指導要領に基づき達成される英語力の目標（中学校卒業段階：英検3級程度以上、高等学校卒業段階：英検準2級程度～2級程度以上）を達成した中高校生の割合50%

² 同実施計画においては、将来目指す生徒の英語力として、高等学校卒業時に英検2級～準1級、TOEFL iBT 57点程度以上が示された。その後、「英語教育の在り方に関する有識者会議」報告（平成26年9月）において、生徒の英語力を把握し、きめ細かな指導の改善・充実や生徒の学習意欲の向上につなげるため、従来設定されている英語力の目標（学習指導要領に沿って設定される目標（中学校卒業段階：英検3級程度以上、高等学校卒業段階：英検準2級程度から2級程度以上）を達成した中高生の割合50%）だけでなく、高等学校段階の生徒の特性・進路などに応じた英語力、例えば、高等学校卒業段階で、英検2級～準1級、TOEFL iBT 60点前後以上などを設定し、生徒の英語力の把握・分析・改善を行うことが必要であるとの指摘がなされた。

2. 調査事項及び方法

ア. 英語力調査

- ・学習指導要領に基づき、3 技能（読むこと、聞くこと、書くこと）を対象とした試験を 2 単位時間（約 100 分）の中で実施した。
- ・「話すこと」については 1 校あたり 1 クラス程度を対象とし、1 受験者あたり 10 分程度実施した。
- ・筆記テストの試験監督及びスピーキングテストの試験官は、調査対象校の英語担当教員などが研修（送付された研修資材を使った事前研修）を経て担当した。

イ. 質問紙調査（生徒、英語担当教員、学校）

- ・受験した生徒に対し、英語学習に関する関心・意欲や学習状況
- ・調査実施校の英語担当教員に対し、指導や研修の参加状況
- ・調査実施校に対し、指導計画の作成や研修の実施状況などについて質問紙調査を実施した。

ウ. 学校の取組事例

- ・調査実施校のうち、調査結果において特徴があった学校の取組について調査した。

3. 調査期間、調査対象

調査期間：平成 26 年 7 月上旬～9 月上旬

※上記期間内において調査対象校が希望する日程で実施。なお、筆記テストの実施日とスピーキングテストの実施日を分けることも可能とした。

調査対象：全国の高等学校及び中等教育学校後期課程の第 3 学年約 7 万人を対象に実施。スピーキングテストについては約 1.7 万人（1 校あたり 1 クラス）を対象に実施。

学校種別の参加生徒数は、以下のとおり。

- ① 公立学校：全国で無作為抽出した 456 校（約 6 万 6 千人）
- ② 国立学校：全ての国立大学法人附属高等学校及び中等教育学校（後期課程）
21 校（約 3 千人）

（受験した学校数、生徒数及び回答した教員数）

	校数	教員数	生徒数	
			リーディング リスニング ライティング	スピーキング
公立学校・調査対象校	456	2,493	65,904	15,832
国立学校・調査対象校	21	129	3,148	751
合計	477	2,622	69,052	16,583

4. 調査結果の解釈などに関する留意事項

本調査結果の解釈については、以下の点に留意されたい。

- ・本調査は、生徒に求められる英語力や学習状況について把握・分析を行うとともに、それらの結果を指導の改善に生かすことを目的としている。また、民間事業者により提供された試験を活用するものであり、調査の結果は、生徒に求められる英語力の一部、または学校における教育活動の一側面に関するものである。したがって、学校が日常的に行う評価に加え、英語によるコミュニケーション能力の一つの指標として本調査結果をとらえるべきであることに留意した上で、効果的な指導改善に活用されたい。
- ・本調査において用いられた試験問題は、平成 26 年度と平成 27 年度との経年比較を行うため、原則非公開としている。ただし、指導改善のために活用できるよう、一部の問題については本報告書の中で公開して取り上げることとした。
- ・本報告書は、「英語教育改善のための英語力調査事業の分析・活用に関する検討委員会」（P. 168～169 参照）の委員各位の協力を得て作成した。

5. 調査問題の構成

- 「読むこと」：多肢選択式・3パート構成・43問（45分）
- 「聞くこと」：多肢選択式・2パート構成・36問（23分）
- 「書くこと」：自由記述式・2パート構成・2問（27分）
- 「話すこと」：音読、即興での質疑応答、ある程度準備した上での意見陳述について評価基準を設け、教員が面接を実施・3問（約10分）

〈問題構成の全体概要〉

	Reading 読むこと	Listening 聞くこと	Writing 書くこと	Speaking 話すこと
測定する力	実際の言語使用場面を前提とした英語コミュニケーション能力 (「知識・技能」の習得だけでなく、それらを活用して思考・判断・表現する総合的な力)			
問題構成	語彙・語法問題 14問 <small>(短文の中で、文脈を理解するとともに、文法的に、また語彙選択上最も適切な表現を正確に判断できる力)</small> ※A2～B1相当	課題解決問題 18問 <small>(日本語で事前に与えられる状況設定及び視覚情報(イラスト)と音声情報から、その場で求められている課題(タスク)を解決する力)</small> ※A2相当	情報要約問題 1問 <small>(聞いた情報を指定語数(30語程度)で要約して書く力)</small> ※B1～B2相当	音読問題 1問 <small>(適切な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさで話す力)</small> ※A1～B2相当
	概要把握問題 6問 <small>(与えられた英文の題材について、短時間で全体の概要を理解する力)</small> ※A2～B1相当	要点理解問題 18問 <small>(英文音声の中から、事前に与えられる英語の質問に答えるために必要な情報を選択し、求められている解答を導くために適切な判断をする力)</small> ※A2～B2相当	意見展開問題 1問 <small>(与えられたテーマについて、限られた時間の中で自分の意見を説得力を持って表現する力)</small> ※A2～B2相当	質疑応答問題 1問 <small>(試験官からの問いかけに応じて生徒自身の経験や考えを適切に述べる力)</small> ※A1～B2相当
	情報検索問題 8問 <small>(与えられた英文の題材について、短時間で必要な情報を引き出す力)</small> ※A2相当			意見陳述問題 1問 <small>(事実と自分の意見とを区別して、論理的に説明する力)</small> ※A1～B2相当
	要点理解問題 15問 <small>(まとまった量の英文について、英文の趣旨に関する内容や詳細部分の要点を理解し、必要な情報を読み取る力)</small> ※B2相当			

〈受験した生徒・調査実施校の英語担当教員・調査実施校に対する質問紙調査の構成〉

	内容
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○英語に関する意識（英語学習への関心、英語をどの程度身に付けたいかなど） ○英語の授業における言語活動の状況 ○英語の学習情報・内容や学習時間 ○英語使用に関する経験（スピーチ・ディベート大会、イングリッシュキャンプ、留学など） ○高校入学後の英語の資格・検定試験の受験経験 など
教員質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○授業における言語活動の指導状況（スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなど） ○授業における英語の使用状況 ○校内外の研修への参加状況 ○自己学習の状況 など
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修の状況（模擬授業、授業相互参観など） ○校外研修への参加・活用状況 など

6. 出題内容

■リーディング

出題形式：多肢選択式・3パート構成・43問

実施時間：45分

Reading	分野	測定する力	CEFRレベル
Part A	語彙・語法問題	短文の中で、文脈を理解するとともに、文法的に、また語彙選択上最も適切な表現を正確に判断できる力	A2～B1レベル
Part B	概要把握問題	与えられた英文の題材について、短時間で全体の概要を理解する力	A2～B1レベル
	情報検索問題	与えられた英文の題材について、短時間で必要な情報を引き出す力	A2レベル
Part C	要点理解問題	まとまった量の英文について、英文の趣旨に関する内容や詳細部分の要点を理解し、必要な情報を読み取る力	B2レベル

■リスニング

出題形式：多肢選択式・2パート構成・36問

実施時間：23分

Listening	分野	測定する力	CEFRレベル
Part A	課題解決問題	日本語で事前に与えられる状況設定及び視覚情報（イラスト）と音声情報から、その場で求められている課題（タスク）を解決する力	A2レベル
Part B	要点理解問題	英文音声の中から、事前に与えられる英語の質問に答えるために必要な情報を選択し、求められている解答を導くために適切な判断をする力	A2～B2レベル

■ライティング

出題形式：自由記述式・2パート構成・2問

実施時間：27分

Writing	分野	測定する力	CEFRレベル
1	情報要約問題	聞いた情報を指定語数（30語程度）で要約する力	B1～B2レベル
2	意見展開問題	与えられたテーマについて、限られた時間の中で自分の意見を説得力を持って表現する力	A2～B2レベル

■スピーキング

出題形式：音読・1問

即興を前提とする質疑応答・1問（4段階の質疑応答）

ある程度準備をした上での意見陳述・1問

※調査対象校の英語担当教員などが試験方法及び採点の事前研修をした上で面接を実施

実施時間：約10分

Speaking	分野	測定する力	CEFRレベル
Part A	音読問題	問題冊子に印刷された英文（77語）を音読する力	A1～B2レベル
Part B	質疑応答問題	試験官からの問いかけに応じて生徒自身の経験や考えを適切に述べる力	A1～B2レベル
Part C	意見陳述問題	事実と自分の意見とを区別して、論理的に説明する力	A1～B2レベル

■質問紙

生徒への質問	<ul style="list-style-type: none"> ○英語に関する意識 <ul style="list-style-type: none"> ・英語学習への関心 ・英語をどの程度身に付けたいか [国際社会で活躍、大学で専門的に学ぶ、海外留学、日常会話、大学入試など] ○英語の授業における言語活動の状況 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士での話合いや意見交換など ○英語の学習方法・内容や学習時間 <ul style="list-style-type: none"> ・英語の予習や復習以外の英語学習の状況 ・PCやタブレットなどの機器を使用した学習の状況 ○高校生になってからの英語使用に関する経験 [スピーチ・ディベート大会、イングリッシュキャンプ、ホームステイ、留学など] ○高校生になってからの英語の資格・検定試験の受験経験 など
教員への質問	<ul style="list-style-type: none"> ○授業における言語活動の指導状況 <ul style="list-style-type: none"> ・スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなど ○授業における英語の使用状況 ○授業において生徒が英語で言語活動を行っている割合 ○校内外の研修会への参加状況 ○自分の英語力を向上させるための取組 <ul style="list-style-type: none"> ・英字新聞、テレビの英語講座、語学学校など ○英語の外部検定試験の受験状況 など
学校への質問	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業、授業相互参観、事例研究など ○校外研修への参加・活用状況 ○言語活動に重点を置いた指導計画の作成状況 など

7. ライティング及びスピーキングの採点基準

■ライティング

情報要約問題	内容 要点1	内容 要点2	表現	0点	1点	2点	3点	4点
				1つめの要点を含むことができている。	2つめの要点を含むことができている。	英文が書かれていないか、出題のテーマから外れたことを書いたりしている。	理解が困難となるような文法上の誤りが見られるため、読み手が混乱して伝えたい内容を理解できないところが多くある。	理解が困難となるような文法上の誤りが見られることがあるため、要旨が十分に伝わらないところがある。

意見展開問題	内容・意見	内容・理由	表現・語彙	表現・文法	構成	0点	1点	2点	3点	4点
						課題に対する自分の意見や立場を伝えることができる。	自分の意見や立場をサポートする理由や具体例などを伝えることができる。	英文が書かれていないか、出題のテーマから外れたことを書いたりしている。	理解が困難となるような文法上の誤りが見られることがあるため、伝えたい内容を理解できないところが多くある。	理解が困難となるような文法上の誤りが見られることがあるため、要旨が十分に伝わらないところがある。
			英文が書かれていないか、出題のテーマから外れたことを書いたりしている。	理解が困難となるような文法上の誤りが見られることがあるため、要旨が十分に伝わらないところがある。	文と文とのつながりが悪かったり、言いたいことがうまくまとまっていたりするため、読み手が混乱して伝えたい内容を理解できないところが多くある。				さまざまな文のパターンを用いることができる。また、使い方もほぼ正しく、十分に考えを伝えることができる。	豊富で多様な文のパターンを用いることができる。また、使い方も正しく、効果的に考えを伝えることができる。
			英文が書かれていないか、出題のテーマから外れたことを書いたりしている。	文と文とのつながりが悪かったり、言いたいことがうまくまとまっていたりするため、読み手が混乱して伝えたい内容を理解できないところが多くある。	文と文とのつながりが悪かったり、言いたいことがうまくまとまっていたりするため、読み手が混乱して伝えたい内容を理解できないところがある。				文と文とのつながりがよく、文章全体の流れもほぼ自然で、十分に考えを伝えることができる。	文と文とのつながりがよく、文章全体の流れが自然で一貫しており、考えを明確に伝えることができる。

■スピーキング

配点		0点	1点	2点	3点
Part A 音読	音読の評価	適切に発音できる内容は限定的で、聞き手が理解するのに困難が伴う【A1レベル】	母語アクセントが残っていたり、発音ミスも時にあったりするが、ほぼ適切な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを話している【A2レベル】	明瞭で自然な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを話している【B1～B2レベル】	
	内容の評価	相手の発言に対応した適切な内容で応答できているのは、Q1～Q4のうち1つのみか1つもない【A1レベル】	相手の発言に対応した適切な内容で応答できているのは、Q1～Q4のうち半分程度である【A2レベル】	相手の発言に対応した適切な内容で、Q1～Q4のほぼすべてに回答できている【B1レベル】	相手の発言に対応した適切な内容で、Q1～Q4のすべてに回答できている【B2レベル】
Part B 質疑応答	文法、表現の評価	使える文法や表現は限定的である、あるいは、Q1～Q4のうち1つ以下しか適切に回答できていない【A1レベル】	Q1～Q4のうち2つ以上に適切に回答できていて、時制の誤りなど基本的なミスが繰り返して出てくるが、平易な表現は正しく使えていて、伝えたい内容はほぼわかる【A2レベル】	Q1～Q4のうち2つ以上に適切に回答できていて、文法や表現に誤りは出てくるが、伝えたい内容はわかる【B1レベル】	Q1～Q4のうち2つ以上に適切に回答できていて、適切な文法や表現を用いている。誤りがあっても理解には影響しない【B2レベル】
	内容、構成の評価	与えられた問いに対応した内容になっていない、あるいは内容が量的にほとんどないか断片的である【A1レベル】	与えられた問いに対応した内容となっているが、単純な要素を列挙して平易な英文を並べている【A2レベル】	与えられた問いに対応した内容となっているが、単純な要素を直線的につなぎ合わせて述べている【B1レベル】	与えられた問いに対応した内容になっていて、論理展開がわかりやすい構成となっている【B2レベル】
Part C 意見陳述	文法、表現の評価	使える文法や表現は限定的である、あるいは自分の言葉で話せた内容が十数語に満たない【A1レベル】	自分の言葉で十数語程度以上は話して、時制の誤りなど基本的なミスが繰り返して出てくるが、平易な表現は正しく使えていて、伝えたい内容はほぼわかる【A2レベル】	自分の言葉で十数語程度以上は話して、文法や表現に誤りは出てくるが、伝えたい内容はわかる【B1レベル】	自分の言葉で十数語程度以上は話して、適切な文法や表現を用いている。誤りがあっても理解には影響しない【B2レベル】